

研修名 令和7年度FD推進ワークショップ【オンライン参加コース】
主催団体 日本私立大学連盟

場所：オンライン
期間：2025年8月5日（火）

1. 研修の内容

<オンライン参加コース>

【開催日時】 令和7年8月5日（火）10:30～17:20

【実施方法】 Zoom（オンライン会議ツール）によるオンライン開催

【参加人数】 22大学31名

【プログラム】

参加者は、事前の動画視聴により模擬授業作成におけるポイントの説明を受けた上で、当日実施する模擬授業の準備を行った。

1. 開会挨拶

圓月 勝博（教育研究委員会委員長、同志社大学文学部教授）

2. 全体説明（オリエンテーション）

原田 章（FD推進ワークショップ運営委員会委員、追手門学院教育支援センター長、経営学部教授）

3. グループ討議

5、6名のグループに分かれ、運営委員のファシリテーションのもと、授業や学生対応に関する課題や悩み、工夫の共有を行った。

4. 模擬授業

各グループにおいて、参加者による15分間の模擬授業とその後のふりかえりを通じて、授業の展開方法や手法等、授業改善のための意見交換を行った。

5. 全体ふりかえり

望月 雅光（FD推進ワークショップ運営委員会委員、創価大学経営学部教授）

今津 敏晃（FD推進ワークショップ運営委員会委員、亜細亜学園法学部准教授）

各グループで議論を深めたことや、他の参加者の模擬授業を受けての気づきなどについて、委員2名の司会進行の下、参加者全員で共有し合い、授業改善のヒントを探った。

6. 閉会挨拶

長谷川 岳史（FD推進ワークショップ運営委員会委員長、龍谷大学経営学部長、経営学部教授）

2. 研修の成果

私が本ワークショップに参加した最大の目的は、授業中の学生の集中力を維持することであった。これまでの授業を振り返ると、講義中心の進行では学生の関心を持続させることが難しく、学習意欲の低下や受動的な姿勢につながる場面が少なくなかった。本ワークショップを通じて、複数の大学の様々な分野の先生方が実践されている授業方法に触れることができ、大いに勉強になった。特に、所属するグループの担当の先生が紹介した「座学におけるアクティブラーニングの取り入れ方」は非常に印象的であった。具体的には、授業を実施する前に写真や図表などの視覚的資料を学生に提示し、まずは自ら考えさせ、その後に教員が解説を加えるという方法である。この手法は、学生の集中力を持続させると同時に、課題を発見する力や解決に向けた思考力を高める点で有効であると感じた。私自身の授業においても、異文化や国際的な事例を取り扱う場面が多いため、この方法を応用することで学生の主体的学びを促進できると考える。

3. 授業への研修成果の反映状況

今後の取り組みとしては、いきなり大規模に授業全体を変えるのではなく、小さな工夫から段階的に導入していきたい。例えば、一回の授業に短時間でも学生が写真や図表を手掛かりに意見を述べる場を設け、その反応を観察しながら改善を重ねていく。さらに、授業後には簡単な振り返りを実施し、学生の意見を次回の授業に反映させることで、授業改善を継続的に進める仕組みを整えたい。こうした取り組みを通じて、学生が集中力を保ちながら主体的に学べる授業環境を築いていきたい。

学習・教育支援 センター委員長	名古屋教務課長	係